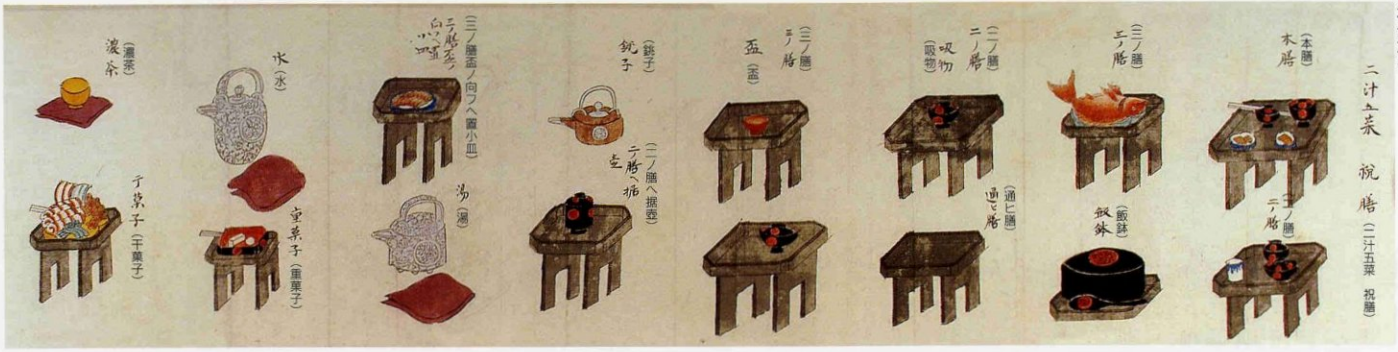
大名の正月

年始式



具足祝鏡開

謡初

この絵図は巻物で、前橋藩松平家の正月年始式、三日謡初、十一日具足祝鏡開の諸儀式の飾りや道具類、その並べ方を描いたものです。江戸時代における大名家の儀式の様子が分かります。謡初は謡曲のうたいはじめをする儀式のことです。こうした正月儀式は、武家にとっては大切なことで、大名家ごとに仕来りや作法もありました。この絵図の伝わった豊田家では当主が小姓（藩主の身の回りの世話をする役職）役に就任しています。

〈参考資料〉『群馬県史』通史編6　87～109頁